

### 【今日の説教から】

古来より人々は、神様のお言いつけにより、自らの罪のためのいけにえとして動物のいのちを捧げ続けてきました。

人は罪ある者であり、神様の前に進み出ることがかなわず、そのために、なだめの供え物を必要としていました。

しかし新しい時代が来て、新しい契約が神様からもたらされました。それはすなわち、「わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリスト」が与えられたということであり、「彼は、わたしたちの罪のための、あがないの供え物である。ただ、わたしたちの罪のためばかりではなく、全世界の罪のためである」という、この神の御子の供え物が与えられ、一方的に、ただ神様の恵みによって赦しが与えられ、神様との和解がなされたということです。

古い戒め(旧約)は去り、それに勝る新しい契約がもたらされました。新しい契約が、古い契約を全うし、成就し、飲み込んだのです。

それは輝ける神様の愛と恵み、光と愛の世界です。無条件の赦しの愛です。それが真理、それが「やみは過ぎ去り、まことの光がすでに輝いている」ということです。そんな赦しの、慈しみの光の中にいながら、どうしてまだ人を赦せないでいるのでしょうか。何の条件もなく赦された私たちが、どうして人に許される条件をたたきつけるのでしょうか。神の赦しの愛を本当に知っている人は人をも赦します。そしてその人は罪につまずくことがないのです。

皆様おはようございます。わずかではありますが、また雪の積もる朝となりました。寒い中ですが、皆様お元気にお過ごしでしたでしょうか。

三寒四温、寒さと温かきの繰り返すこの頃です。もう花粉の飛散も始まっていると聞きます。コロナウイルスやインフルエンザの猛威もあります。どうぞ皆様お気を付け頂きたくお祈りいたしております。

第一ヨハネの手紙の2章を読み進めております。

この章の書き始めは力強いものでした。

2:1 わたしの子たちよ。これらのことを書きおくるのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためである。もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる。

2:2 彼は、わたしたちの罪のための、あがないの供え物である。ただ、わたしたちの罪のためばかりではなく、全世界の罪のためである。

私たちがもはや罪を犯さずとも良くなるために、一体どうすればいいのでしょうか。古来より、人は神様の御前に入るためには動物の命の犠牲によるいけにえが必須でした。それなく

ば罪あるままで人は神様の前に出ることが赦されませんでした。どれだけ多くの動物の命が犠牲になり、どれだけ多くの血が流されたのでしょうか。しかし人の内面は変わることなく陰湿で、神様に対して反抗的で、人に対して傲慢に振る舞い続けるものでした。

「わたしの子たちよ。これらのことを書きおくるのは、あなたがたが罪を犯さないようになるため」とありますが、どうしたらそんなことを達成することが出来るのでしょうか。

もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる。

2:2 彼は、わたしたちの罪のための、あがないの供え物である。ただ、わたしたちの罪のためばかりではなく、全世界の罪のためである。

罪を犯したとき、私たちの前には怒り狂った裁き手が立っているのではなくて、その両手両足に釘を通された傷痕のある助け主、弁護者キリスト・イエスが立っておられるのです。全世界の罪を赦すため、実に神の御子が身代わりとなられた。これほど値高い犠牲の供え物がどこにあるのでしょうか。これほど値高い犠牲がささげられたのであれば、どのような大きな罪でも、どれほどたくさん人の罪でも、すべて丸ごと、過去から未来に渡るまですべての罪が赦されないことがあるのでしょうか。こうして私たちは、この方によって完全な救いを得ているのです。

2:7 愛する者たちよ。わたしがあなたがたに書きおくるのは、新しい戒めではなく、あなたがたが初めから受けていた古い戒めである。その古い戒めとは、あなたがたがすでに聞いた御言である。

罪と裁き、いけにえによる贖い、これらは古い時からずっと語られてきました。

ローマ 3:10 次のように書いてある、「義人はいない、ひとりもない。

3:11 悟りのある人はいない、神を求める人はいない。

3:12 すべての人は迷い出て、ことごとく無益なものになっている。善を行う者はいない、ひとりもない。

このような人間ですから、私たちはいけにえを必要としない時がありませんでした。罪を犯し、罪を犯し、又罪を犯していけにえを必要としていました。人が神様の前に立ち返り、捧げものを捧げて神様と共に歩む、苦勞と努力と犠牲を重ねてしか、私たちは神様の前に進む

ことが出来ない者でした。そこにずっと戒めと進めがありました。いけにえを携えて我に立ち返れとのものでした。

2:8 しかも、新しい戒めを、あなたがたに書きおくるのである。そして、それは、彼にとってもあなたがたにとっても、真理なのである。なぜなら、やみは過ぎ去り、まことの光がすでに輝いているからである。

まことの光すでに輝いている。

悔いても悔いても、捧げものを捧げても捧げても、完全になる事はなく、ずっと捧げては罪を犯すその繰り返しでした。

ヨハネ 1:1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。

1:2 この言は初めに神と共にあった。

1:3 すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった。

1:4 この言に命があった。そしてこの命は人の光であった。

1:5 光はやみの中に輝いている。そして、やみはこれに勝たなかった。

1 ペテロ 2:9 しかし、あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。

2:10 あなたがたは、以前は神の民でなかったが、いまは神の民であり、以前は、あわれみを受けたことのない者であったが、いまは、あわれみを受けた者となっている。

1 ヨハネ 1:7 しかし、神が光の中にいますように、わたしたちも光の中を歩くならば、わたしたちは互に交わりをもち、そして、御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめるのである。

今は光の時です。今は赦しの時、今は癒しの時。古き契約は新しき大きな恵みの、新しい契約に飲み込まれました。真理の光、まことの光がもう既に輝いています。

2:9 「光の中にいる」と言いながら、その兄弟を憎む者は、今なお、やみの中にいるのである。

2:10 兄弟を愛する者は、光におるのであって、つまづくことはない。

御子イエス・キリストの犠牲による神の愛。これだけの愛を示されたのならば、無条件の、一方的な愛に照らされたのであれば、どうして共に罪の縄目の中にあり、唯々神様の憐れみと愛とによって互いに赦されるだけの隣人、兄弟を赦せないと思うのでしょうか。

マタイ 18:21 そのとき、ペテロがイエスのもとにきて言った、「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯した場合、幾たびゆるさねばなりませんか。七たびまでですか」。

18:22 イエスは彼に言われた、「わたしは七たびまでとは言わない。七たびを七十倍するまでにしなさい。

18:23 それだから、天国は王が僕たちと決算をするようなものだ。

18:24 決算が始まると、一万タラントの負債のある者が、王のところに連れられてきた。

18:25 しかし、返せなかったので、主人は、その人自身とその妻子と持ち物全部とを売って返すように命じた。

18:26 そこで、この僕はひれ伏して哀願した、『どうぞお待ちください。全部お返しいたしますから』。

18:27 僕の主人はあわれに思って、彼をゆるし、その負債を免じてやった。

18:28 その僕が出て行くと、百デナリを貸しているひとりの仲間に出会い、彼をつかまえ、首をしめて『借金を返せ』と言った。

18:29 そこでこの仲間はひれ伏し、『どうか待ってくれ。返すから』と言って頼んだ。

18:30 しかし承知せずに、その人をひっぱって行って、借金を返すまで獄に入れた。

18:31 その人の仲間たちは、この様子を見て、非常に心をいため、行ってそのことをのこらず主人に話した。

18:32 そこでこの主人は彼を呼びつけて言った、『悪い僕、わたしに願ったからこそ、あの負債を全部ゆるしてやったのだ。

18:33 わたしがあわれんでやったように、あの仲間をあわれんでやるべきではなかったか』。

18:34 そして主人は立腹して、負債全部を返してしまうまで、彼を獄吏に引きわたした。

18:35 あなたがためいめいも、もし心から兄弟をゆるさないならば、わたしの天の父もまたあなたがたに対して、そのようになさるであろう」。

1万タラントとは、どれほどの金額なのでしょう。

1タラントは六千デナリです。1デナリは労働者の一日の平均賃金です。ですから、1万タラントとは、労働者の六千万日の給金に等しいので、実に訳六千億円、数千億円もの大金ということになります。百デナリも、約百万円という大きな金額ではありますが、自分が赦された金額の六十万分の一の金額です。私たちはこの例えから何を知ることが出来るのでし

ようか。

普通の価値判断からすれば、六千億円が赦された人は百万円を赦すことが条件であればたやすく赦すことが出来るでしょう。赦した方が自分が巨額の得をするからです。しかし今回は、まず何の条件もなく赦されることから始まっています。国家のお金を、それも巨額のお金を着服し、大犯罪者として一生牢から出られない、死罪にも値する大犯罪を犯した人が無条件に許される。普通はこんなことはあるわけがないのですが、それが私たちの罪の重さということなのです。神様の前に犯した罪はあまりにも重く、それは増え続けていて、自力で返済することは全くできず、それは自らの死を持って償う外ない罪であり、ただ憐れみにより赦されるしか助かる道はないのです。神様は、そのように、狭き穴に閉じ込められて暗黒の中にうめいている自業自得の私たちを憐れんで、愛する御子の尊い犠牲をもって贖ってくださったのです。

しかし、先ほどの負債を赦された家来のように、自由にされればそれをいいことに、百万円を貸していた人に言い寄り、自分のお金を返せと締めあげるのです。これは赦されて助かったのに、他の人の罪を赦さないということです。自分の巨大な罪を贖って頂いたのに、光の中に出していただいたのに、その恩を忘れて人を裁き、責め、赦さないということです。これは神様の悲しまれることです。

2:10 兄弟を愛する者は、光におるのであって、つまづくことはない。

2:11 兄弟を憎む者は、やみの中におり、やみの中を歩くのであって、自分ではどこへ行くのかわからない。やみが彼の目を見えなくしたからである。

自分が何者であるかということを決して忘れないということ。愛して頂いたように全力を尽くして愛すること。これが罪に足を引っ張られ、躓かされることから逃れる方法です。そうしないのならば、私たちは自分が何者であったかを忘れてさまよう漂流者となってしまうのです。

神様の愛のうちに喜び、赦しに感謝してその赦しを分かち合い、伝え続ける者でありたいと願うのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。人がかつてどれだけ苦心して、捧げものを捧げてどうにかして神様の前に赦しを得てきたことでしょうか。どれだけ多くの動物の命の犠牲がこれまでなされ

てきたことでしょうか。しかし人間性は変わることがありません。いったい何によって救いを得ることが出来るのでしょうか。新しい契約、愛する御子の犠牲によって私たちに赦しと平安が与えられたことに驚き恐れつつ感謝いたします。どうかそれにふさわしく私たちをも新しくして下さい。光の子にふさわしく過ごさせてください。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。

アーメン